

【51】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>臓器病態外科学コース (Organ Pathophysiologic Surgery)</p>		
<p>研究指導教員</p>	<p>北川 博昭 中村 治彦</p>	<p>大坪 毅人 津川浩一郎</p>	<p>宮入 剛 平 泰彦</p>
<p>研究 ・ 教育 の 概 略</p>	<p>【教育目標】 医の倫理を体得し、医療を適正に実践すべく一定の修練を経て、診断、手術および術前後の管理・処置・ケアなど一般外科医療に関する標準的な知識と技量を身につけることを目標とする。</p> <p>【取得専門医】 外科学会専門医</p> <p>【ローテーション】 大学院1年目、2年目： 3ヶ月を1クールとして、心臓血管外科、乳腺内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、救急医学をそれぞれ1クール、消化器一般外科3クールローテーションする。それぞれの3ヶ月間で講義2単位、実習1単位を受講する。また、外科専門医取得に必要な手術経験をつむ。 ただし、大学院入学時にすでに外科学会専門医取得のための十分な経験のあるものに対しては、当該診療科のローテーションを免除し、別途プログラムを用意する。 大学院3年目、4年目： 各人の希望する部門において、さらなる知識及び技量の習得に努め、外科学会専門医取得を目指すとともに、サブスペシャリティ専門医の取得を目指す。また、基礎的あるいは臨床的な研究を行い、学位取得をめざす。</p>		
<p>研究 項 目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上部・下部消化管、肝胆膵、各臓器の外科手術手技を習得する。 2. がん治療の最前線、終末期医療、疼痛コントロールを理解する。 3. 術前、術後の栄養管理、SSI全般にわたる最新のEBMを学習する。 4. 心臓外科では開心術における補助循環の原理と実践を習得する。 5. 呼吸器外科では呼吸器循環の病態生理を習得する。 6. 小児外科、乳腺・内分泌外科では、それぞれの基本的な診断学を理解する。 		
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>新臨床外科学、標準外科学、がん疼痛緩和ケア Q&A、心臓血管外科管理ハンドブック、呼吸器外科学、系統小児外科学、乳がん診断ガイドラインなどを参照し、参考資料に目を通し、講義後は配布資料で復習をおこなう。</p>		

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニング I		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2 単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	消化器一般外科診断学総論		1		
2	腹壁外科(1)		2		
3	腹壁外科(2)		3		
4	上部消化管疾患診断学総論		4		
5	上部消化管疾患診断学各論(1)		5		
6	上部消化管疾患診断学各論(2)		6		
7	食道癌外科治療学(1)		7		
8	食道癌外科治療学(2)		8		
9	胃癌外科治療学各論(1)		9		
10	胃癌外科治療学各論(2)		10		
11	消化器一般外科診断学・治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅡ		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	消化管外科診断学総論		1		
2	下部消化管疾患診断学総論		2		
3	下部消化管疾患診断学各論(1)		3		
4	下部消化管疾患診断学各論(2)		4		
5	下部消化管疾患外科治療学総論		5		
6	下部消化管疾患外科治療学(1)		6		
7	下部消化管疾患外科治療学(2)		7		
8	後腹膜臓器疾患診断学総論		8		
9	後腹膜臓器疾患診断学各論		9		
10	後腹膜臓器疾患外科治療学各論		10		
11	脾疾患治療学		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅢ		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	肝疾患診断学(1)		1		
2	肝疾患診断学(2)		2		
3	肝疾患外科治療学(1)		3		
4	肝疾患外科治療学(2)		4		
5	胆道疾患診断学		5		
6	胆道疾患外科治療学(1)		6		
7	胆道疾患外科治療学(2)		7		
8	膵疾患診断学		8		
9	膵疾患外科治療学(1)		9		
10	膵疾患外科治療学(2)		10		
11	消化器外科診断治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (1)		必修/選択 必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	消化器一般外科手術の専門手術手技を実習する。		
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。		
達成目標	上部消化管・一般外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。		
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席と最終実技試験		
講 義 内 容			
前後期(回)	内 容	(出席 [Ⓜ])	内 容
1	腹壁外科手術手技実習	1	
2	食道癌手術手技ビデオ研修	2	
3	開胸開腹食道癌手術手技実習(1)	3	
4	開胸開腹食道癌手術手技実習(2)	4	
5	胃癌幽門側胃切除手術ビデオ研修	5	
6	胃癌胃全摘術ビデオ研修	6	
7	胃癌手術手技スキル実習(1)	7	
8	胃癌手術手技スキル実習(2)	8	
9	腹腔鏡補助下胃癌手術ビデオ研修	9	
10	腹腔鏡補助下幽門側胃切除術手術実習	10	
11	手術手技総括	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (2)		必修/選択 必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	下部消化管外科、脾臓・後腹膜臓器の専門手術手技を実習する。		
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。		
達成目標	下部消化管外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。		
教科書・参考書	大腸外科の最前線(永井書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席と最終実技試験		
講義内容			
前後期(回)	内 容 (出席⑩)		内 容
1	結腸癌切除術手術手技ビデオ研修	1	
2	直腸癌切除術手術手技ビデオ研修	2	
3	右結腸切除術手術手技実習	3	
4	横行結腸切除術手術手技実習	4	
5	左結腸切除術手術手技実習	5	
6	S状結腸切除術手術手技実習	6	
7	高位前方切除術手術手技実習	7	
8	低位前方切除術手術手技実習	8	
9	直腸切断術手術手技実習	9	
10	後腹膜臓器手術手技実習	10	
11	手術手技総括	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (3)		必修/選択 必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	肝胆膵外科手術の専門手術手技を実習する。		
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。		
達成目標	肝胆膵外科解剖の理解と低難度から高難度の肝胆膵外科手術手技の理解。		
教科書・参考書	肝臓外科、胆道外科、膵外科の要点と盲点(文光堂、2002)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席と最終実技試験		
講義内容			
前後期(回)	内 容 (出席⑩)		内 容
1	肝切除手術手技ビデオ研修	1	
2	胆道手術手技ビデオ研修	2	
3	膵手術手技ビデオ研修	3	
4	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(1)	4	
5	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(2)	5	
6	肝癌肝亜区域、区域切除手術手技実習	6	
7	肝癌肝葉切除手術手技実習	7	
8	胆管癌拡大葉切除手術手技実習	8	
9	膵頭十二指腸切除手技実習(1)	9	
10	膵頭十二指腸切除手技実習(2)	10	
11	手術手技総括	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	心臓血管外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修	
担当教員	宮入 剛	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	2単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	心臓血管外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。				
講義計画	心臓血管外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。				
達成目標	心臓血管外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。				
教科書・参考書	心疾患の診断と手術(改訂第5版) 新井達太 著 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回)	内 容	(出席 [㊦])
1	心臓血管外科診断学総論		1		
2	虚血性心疾患診断学各論		2		
3	虚血性心疾患病態学各論		3		
4	虚血性心疾患治療学各論(1)		4		
5	虚血性心疾患治療学各論(2)		5		
6	虚血性心疾患治療学各論(3)		6		
7	弁膜症疾患診断学各論		7		
8	弁膜症疾患病態学各論		8		
9	先天性心疾患診断学各論		9		
10	胸部大動脈疾患診断学各論		10		
11	腹部大動脈疾患診断学各論		11		
12	閉塞性動脈硬化症診断学各論		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース	
講義題目	心臓血管外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	宮入 剛	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	1 単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	心臓血管外科の専門手術手技を実習する。			
講義計画	手術書、ビデオによる手術手技の解説とシミュレーターを用いた手術手技の実習。			
達成目標	まず、心臓血管外科の基本的手術手技を熟知する。その後、各疾患の特殊な手術主義に関して習得する。			
教科書・参考書	心疾患の診断と手術(改訂第5版) 新井達太 著 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	心臓到達法(1)		1	
2	心臓到達法(2)		2	
3	心臓到達法(3)		3	
4	心臓到達法(4)		4	
5	開胸法(1)		5	
6	開胸法(2)		6	
7	開胸法(3)		7	
8	開胸法(4)		8	
9	人工心肺装着術(1)		9	
10	人工心肺装着術(2)		10	
11	人工心肺装着術(3)		11	
12	人工心肺装着術(4)		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	呼吸器外科クリニカルラーニング		必修/選択 必修
担当教員	中村治彦	担当教員連絡先	内線 3230
単位数	2単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	呼吸器外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。		
講義計画	呼吸器外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。		
達成目標	呼吸器外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。		
教科書・参考書	呼吸器外科学 (改訂3版、南山堂)		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間		
成績評価法	出席と最終試験		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	呼吸器外科診断学総論	1	
2	呼吸器外科疾患診断学各論(1)	2	
3	呼吸器外科疾患診断学各論(2)	3	
4	呼吸器外科疾患診断学各論(3)	4	
5	呼吸器外科疾患診断学各論(4)	5	
6	呼吸器外科疾患治療学総論	6	
7	呼吸器外科疾患治療学各論(1)	7	
8	呼吸器外科疾患治療学各論(2)	8	
9	呼吸器外科疾患治療学各論(3)	9	
10	呼吸器外科疾患治療学各論(4)	10	
11	呼吸器外科疾患治療学各論(5)	11	
12	試験、評価	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	呼吸器外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	中村治彦	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	1 単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	呼吸器外科の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	呼吸器外科の基本的な手術手技と各疾患の特殊な手術手技の習得。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 (改訂3版、南山堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	呼吸器外科手術手技実習(1)		1		
2	呼吸器外科手術手技実習(2)		2		
3	自然気胸手術手技ビデオ研修		3		
4	開胸下自然気胸手術手技実習		4		
5	胸腔鏡下自然気胸手術手技実習		5		
6	肺癌手術手技ビデオ研修		6		
7	肺癌手術手技研修(1)		7		
8	肺癌手術手技研修(2)		8		
9	肺癌手術手技研修(3)		9		
10	縦隔腫瘍手術手技研修		10		
11	手術手技総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	小児外科クリニカルラーニング		必修/選択 必修
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222
単位数	2単位(3ヶ月・4、5、6月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	小児外科疾患に対する症例検討を中心に、画像診断、手術適応、治療方針についてプレゼンテーションできることを目的とする。		
講義計画	実際の臨床例を基に、小児外科特有な疾患の臨床像から鑑別疾患をあげ、実際に、その治療計画を立てる。また、臨床症例のプレゼンテーションができるようにする。		
s達成目標	小児外科特有の疾患の中で、特に新生児疾患の画像、手術適応を含めた治療方針が立てられるようにする。		
教科書・参考書	最新外科学(医学出版社)、コメディカルのための外科学(医学出版社) 胎児外科(日本評論社)		
準備学習(予習・復習・時間)	小児の腹部触診や発達について学び、幼児の診察ができるよう学習する。 1時間		
成績評価法	出席と最終試験		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	胎児診断と発生(1)	1	
2	腎・尿路の発生(1)	2	
3	消化管の発生(1)	3	
4	新生児の消化管奇形基本手術(1)	4	
5	新生児の消化管奇形基本手術(2)	5	
6	小児癌の外科手術手技(1)	6	
7	小児癌の外科手術手技(2)	7	
8	小児腹痛疾患の診断(1)	8	
9	小児腹痛疾患の診断(2)	9	
10	胎児外科手術の基本(1)	10	
11	胎児外科手術の基本(2)	11	
12	胎児外科手術の基本(3)	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	小児外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222		
単位数	1単位(3ヶ月・4、5、6月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	小児特有の手術のビデオ研修				
講義計画	1. ビデオライブラリーから借用した小児外科疾患の手術ビデオ供覧 2. 小児腹腔鏡手術手技の基礎				
達成目標	小児外科特有の疾患の手術方法の理解				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	縫合や糸結びができるようにする。1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回)	内 容	(出席 [㊦])
1	頭頸部疾患の手術(1)		1		
2	頭頸部疾患の手術(2)		2		
3	新生児手術の基本(1)		3		
4	新生児手術の基本(2)		4		
5	肝胆道の手術(1)		5		
6	肝胆道の手術(2)		6		
7	直腸。肛門疾患(1)		7		
8	直腸。肛門疾患(2)		8		
9	小児鏡視下手術の基本(1)		9		
10	小児鏡視下手術の基本(2)		10		
11	小児鏡視下手術の応用(1)		11		
12	小児鏡視下手術の応用(2)		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ㊦

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	乳腺内分泌外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修	
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222		
単位数	2単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療を理解する				
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して診断学を理解し、管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断について、論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断に基づいた治療計画を策定できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回)	内 容	(出席 [㊦])
1	乳腺・甲状腺の解剖		1		
2	ホルモンと乳腺の関連		2		
3	乳癌の疫学		3		
4	乳腺・甲状腺疾患の視触診		4		
5	乳腺疾患の画像診断		5		
6	甲状腺・副甲状腺疾患の画像診断		6		
7	転移性乳癌の画像診断		7		
8	乳腺疾患の組織診断		8		
9	甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断		9		
10	良性乳腺疾患の外科治療		10		
11	乳癌の外科治療		11		
12	甲状腺・副甲状腺疾患の外科治療		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	乳腺内分泌外科手術スキル実習		必修/選択 必修
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の外科療法を理解する		
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して外科療法を理解し、管理方法を検討する。		
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患について、外科療法を論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断と外科手技を行うことができる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間		
成績評価法	出席と実習内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)
1	乳腺疾患の穿刺細胞診	1	
2	乳腺疾患の針生検	2	
3	乳腺疾患のマンモトーム生検	3	
4	乳腺疾患の外科生検	4	
5	良性乳腺疾患の手術(1)	5	
6	良性乳腺疾患の手術(2)	6	
7	乳癌の手術-乳房温存術(1)	7	
8	乳癌の手術-乳房温存術(2)	8	
9	乳癌の手術-乳房切除術(1)	9	
10	乳癌の手術-乳房切除術(2)	10	
11	乳癌のリンパ節郭清	11	
12	甲状腺良性腫瘍の手術	12	
13		13	
14		14	
15		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	疼痛コントロール		必修/選択 選択
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	疼痛緩和ケアの臨床。		
講義計画	疼痛ケアに関する臨床基礎知識の学習と疼痛ケア回診とカンファレンス、そして、学内外講師による講義。		
達成目標	疼痛ケアの EBM を学習し習熟する。		
教科書・参考書	がん疼痛緩和ケア Q&A—効果的な薬物治療・QOL の向上をめざして(じほう出版)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席、総合討論、発表		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回) 内 容
1	がん疼痛緩和ケア概論		1
2	末期がん医療の実際		2
3	WHO 方式がん疼痛治療法		3
4	がん患者の治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール		4
5	疼痛患者の精神的サポート		5
6	がん告知における医療サポート		6
7	疼痛緩和と消炎鎮痛剤		7
8	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の役割		8
9	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の適正使用法		9
10	疼痛緩和における地域医療連携室の役割		10
11	在宅・緩和病棟の役割とホスピスへのコーディネート		11
12	疼痛に伴う精神症状の臨床		12
13	オピオイド製剤の副作用対策		13
14	がん疼痛緩和ケア総括		14
15	発表、討論、評価		15

講義担当者承認

㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	Nutrition Support クリニカルラーニング		必修/選択 選択
担当教員	民上真也	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年
テーマと目的	Nutrition support の最新の EBM の学習。		
講義計画	Nutrition support team の回診と学内外の専門講師による講義。		
達成目標	Nutrition support の最新知見を習熟し、臨床にて実践できることを目標とする。		
教科書・参考書	標準外科学(医学書院)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席、講義内での発表の評価、試験		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回) 内 容
1	Nutrition support 総論		1
2	褥瘡治療・予防における NST 活動とその効果		2
3	周術期管理における NST 活動		3
4	身体機能回復に対する NST 活動の有用性		4
5	救急医療と NST		5
6	Intensive insulin therapy "IIT"の臨床成績		6
7	Immunonutrients の作用機序、臨床効果		7
8	栄養ケアにおけるベッドサイドのモニタリング		8
9	静脈・経腸栄養法のモニタリングのポイント		9
10	栄養管理実施加算について		10
11	絶食患者におけるビタミン非添加末梢静脈栄養時の血中水溶性ビタミン濃度の変化		11
12	NST のアウトカム評価		12
13	感染対策としての NST 活動の意義		13
14	呼吸障害に対する NST 活動とその効果		14
15	総括、試験		15

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(17)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース	
講義題目	Infection Control Team Conference		必修/選択 選択	
担当教員	榎本武治	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	Surgical site infection コントロール全般にわたる最新の EBM の学習。			
講義計画	Surgical site infection コントロールチーム回診カンファレンスと学内外講師による講義。			
達成目標	Surgical site infection コントロール全般の EBM を学習し習熟する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回)	内 容
1	SSI 総論		1	
2	耐性菌対策に向けた周術期抗菌薬使用		2	
3	Surgical site infection (SSI) に対する創縁保護用ドレープの有用性		3	
4	『食道癌切除術症例に対する術前 immunonutrition に関する検討』		4	
5	術後感染減少を目指した胃癌手術における材料と手技の工夫		5	
6	術後感染対策としての免疫増強栄養法術前投与の重要性		6	
7	大腸癌手術における創縁保護具(wound retractor)の SSI 予防効果		7	
8	下部消化管穿孔術後の重症感染症の検討		8	
9	尾側膵切除術における予防的抗生剤投与に関する検討		9	
10	『胆道再建術後、肝切除術を試行した症例の SSI に関する検討』		10	
11	予防的抗菌薬術前術中投与方法による胃癌手術の SSI		11	
12	開心術後に生じた縦隔洞炎の治療と起因菌について		12	
13	肺全摘術後膿胸への対処法		13	
14	SSI 総括		14	
15	試験、評価		15	

講義担当者承認

㊦

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	人工心肺、補助循環特論		必修/選択	選択	
担当教員	近田正英	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	開心術の基本補助手段の人工心肺の原理、実践法を習得する。循環の種々の補助手段を理解する。				
講義計画	人工心肺の基礎から説明し、臨床の実際を解説する。補助循環も詳細に説明する。				
達成目標	人工心肺の原理を理解し、実際の臨床での使用法を習得する。人工心肺のトラブル対応法も理解する。種々の循環の補助手段を習得する。				
教科書・参考書	新 心臓血管外科管理ハンドブック 南江堂				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席 [㊦])	後期(回)	内 容	(出席 [㊦])
1	人工心肺法総論(1)		1	常温体外循環法各論(1)	
2	人工心肺法総論(2)		2	常温体外循環法各論(2)	
3	人工心肺法総論(3)		3	常温体外循環法各論(3)	
4	人工心肺法総論(4)		4	常温体外循環法各論(4)	
5	心筋保護法各論(1)		5	低体温循環停止法各論(1)	
6	心筋保護法各論(2)		6	低体温循環停止法各論(2)	
7	心筋保護法各論(3)		7	低体温循環停止法各論(3)	
8	心筋保護法各論(4)		8	低体温循環停止法各論(4)	
9	脳分離体外循環法各論(1)		9	逆行性脳還流法各論(1)	
10	脳分離体外循環法各論(2)		10	逆行性脳還流法各論(2)	
11	IABP 法各論(1)		11	逆行性脳還流法各論(3)	
12	IABP 法各論(2)		12	LVAD 各論(1)	
13	PCPS 各論(1)		13	LVAD 各論(2)	
14	PCPS 各論(2)		14	人工心臓各論(1)	
15	PCPS 各論(3)		15	人工心臓各論(2)	

講義担当者承認

㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	臓器病態外科学コース		
講義題目	呼吸器外科 診断実習		必修/選択	選択	
担当教員	中村治彦	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	呼吸器疾患診断手技実習として気管支鏡、胸部超音波検査を習得する。				
講義計画	内視鏡専門医による技術指導と実習				
達成目標	内視鏡手技、胸部超音波検査を習得し、呼吸器診断学を学習する。				
教科書・参考書	気管支鏡 第2版 日本呼吸器内視鏡学会編 (医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	呼吸器の解剖		1	院内感染防止	
2	呼吸器の生理		2	気管支鏡実習(1)	
3	気管支の命名法と肺区域		3	気管支鏡実習(2)	
4	気管支壁の構造		4	気管支鏡実習(3)	
5	気管支鏡検査の目的		5	気管支鏡実習(4)	
6	気道の局所麻酔法		6	気管支鏡実習(5)	
7	気管支観察法		7	気管支鏡実習(6)	
8	気管支壁病変の生検法		8	気管支鏡実習(7)	
9	経気管支肺生検の目的		9	気管支鏡実習(8)	
10	経気管支肺生検の方法		10	胸部超音波実習(1)	
11	経気管支肺生検の合併症		11	胸部超音波実習(2)	
12	超音波気管支鏡の原理		12	胸部超音波実習(3)	
13	超音波気管支鏡の方法		13	胸部超音波実習(4)	
14	気管支鏡検査と炎症		14	胸部超音波実習(5)	
15	気管支鏡検査と腫瘍		15	気管支鏡、超音波実技評価	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(20)

講義題目	乳癌の診断・治療計画		必修/選択	選択
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	乳癌の診断と治療方針の選択・決定までを修得する。			
講義計画	乳癌専門医による講義と実習。診断から治療方針の選択・決定までの流れを実際の症例を通して計画・実行する。			
達成目標	乳癌の診断から標準治療計画の立案。			
教科書・参考書	科学的根拠に基づく乳癌診断ガイドライン 1-5 金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と発表・討論			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	乳癌の画像診断 マンモグラフィ	1	乳癌術式の選択	
2	乳癌の画像診断 超音波	2	薬物療法の選択	
3	乳癌の画像診断 CT	3	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 1	
4	乳癌の画像診断 MRI	4	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 2	
5	乳癌の組織診断 針生検・マンモトーム	5	乳癌化学療法の選択とレジメン 1	
6	乳癌の治療計画 1	6	乳癌化学療法の選択とレジメン 2	
7	乳癌の治療計画 2	7	乳癌化学療法(分子標的学)の選択とレジメン	
8	乳癌の治療計画 3	8	術前化学療法の適応とレジメン	
9	乳癌のステージング 1	9	術前内分泌療法の適応とレジメン	
10	乳癌のステージング 2	10	術前薬物療法の効果判定 1	
11	乳癌のサブタイプ 1	11	術前薬物療法の効果判定 2	
12	乳癌のサブタイプ 2	12	術後薬物療法の適応と選択 1	
13	乳癌の転移診断 1	13	術後薬物療法の適応と選択 2	
14	乳癌の転移診断 2	14	転移乳癌の治療選択 1	
15	乳癌の転移診断 3	15	転移乳癌の治療選択 2	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(21)

講義コード		専攻分野	臓器病態外科学コース
講義題目	胎児治療の最前線		必修/選択 選択
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222
単位数	2単位(前期2)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	現在おこなわれている胎児治療について学び、外科的な役割について学習する。		
講義計画	胎児治療にもちいられる内視鏡的器材の開発や現在鏡視下手術でもちいられる器具をどのように応用できるかについて学内外講師による講義をおこなう。		
達成目標	胎児治療の歴史的背景を学び今後臨床と研究の接点をみいだす。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	消化管と泌尿器の発生学を学ぶ。特に Moore の人体発生学が良い。 1時間		
成績評価法	出席と最終試験		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	胎児治療の倫理	1	
2	胎児の生理 1	2	
3	胎児の生理 2	3	
4	胎児の診断 1	4	
5	胎児の診断 2	5	
6	内科的胎児治療 1	6	
7	内科的胎児治療 2	7	
8	外科的胎児治療 1	8	
9	外科的胎児治療 2	9	
10	産科的胎児治療 1	10	
11	産科的胎児治療 2	11	
12	胎児治療の現状	12	
13	尿路閉塞の胎児治療	13	
14	脊椎髄膜瘤の胎児治療	14	
15	横隔膜ヘルニアの胎児治療	15	

講義担当者承認

Ⓜ